VB資産分析ソリューション

富士通鹿児島インフォネット

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

レガシー資産の対策を検討されていますか？

FUJITSU

■ レガシー資産運用で困ったことはありませんか？

最新化へのハードル

システムがブラックボックス化しており、容易に最新化へ取り組むことができない

投資対効果

レガシー資産を現行踏襲のまま最新化は予算確保が難しい

新しいビジネスへの対応

業務効率化のためのシステムであり、新しいビジネス・モデル創出へ柔軟な対応が難しい

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

レガシー資産をとりまく状況

FUJITSU

■ レガシー資産運用における今後の状況

セキュリティリスク

OSのサポートが終了することで、セキュリティホール改修等のアップデートが停止
セキュリティに対するリスクが増大

システムの維持費用

開発言語のサポートが終了することで、最新OSへ対応難易度が高くなる
古い開発言語を使い続けても、保守要員が確保が困難になる

デジタル技術の活用

DXレポートに謳われているように新たなデジタル技術を活用して、新たなビジネス・モデルを創出・柔軟に改変するデジタルトランスフォーメーションの必要性

レガシーへの対応をシステム見える化から考えませんか？

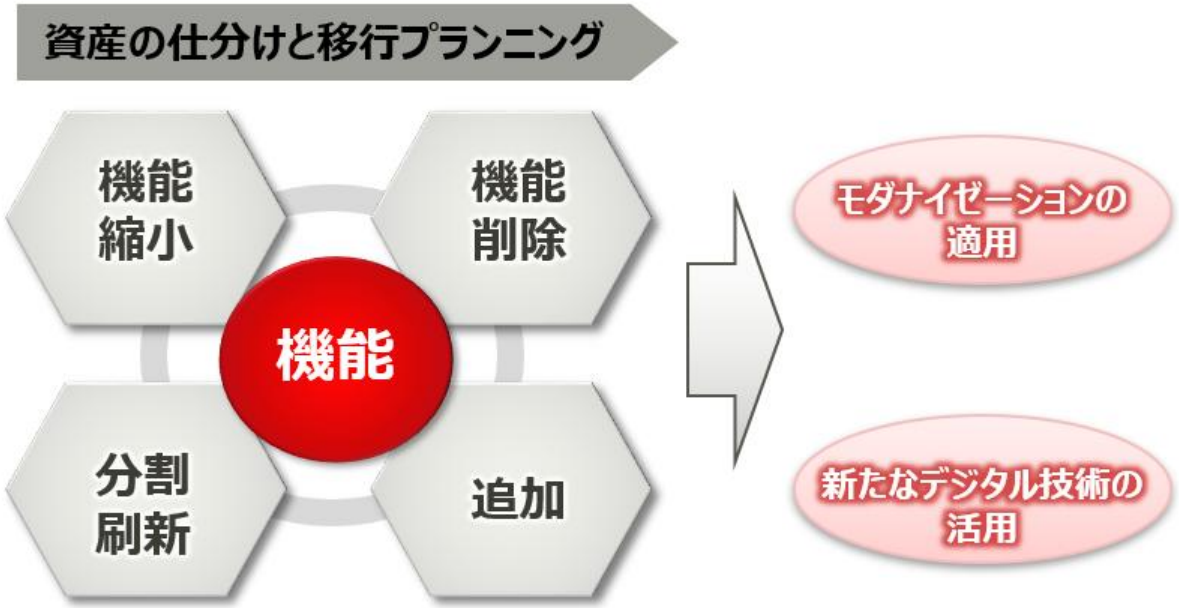
© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

レガシー資産の見える化の提案

FUJITSU

■ 資産分析による見える化について

レガシー資産脱却に向けた取り組みを支援する資産分析ソリューションを提供します。
当社のVisualBasicのマイグレーションを行う「VB資産再生ソリューション」で培った
資産分析ノウハウを元にお客様のレガシーの解決に必要な分析の支援を行います。
DXレポートにあるDX推進システムガイドライン記載の情報資産の仕分けと移行
プランニングをベースにKFN独自で4つの分析観点で評価・仕分けを実施します。



© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

資産分析ソリューションにて提供する内容

FUJITSU

■ ４つの観点で資産を分析

DX支援向け資産分析ソリューションでは、以下の４つの観点で資産分析を行います。

１．　全体診断（現行踏襲）

お客様のプログラム資産を静的に調査・分析・資産の見える化を実施

既存システムを流用することに対する課題を抽出

２．分割・刷新

現行システムに対して新たなデジタル技術の活用を期待している機能

あるいは頻繁に更新がかかっている機能を抽出

３．機能削除・縮小

使われていない未使用資産やプログラム中のロジックや画面コントロールを調査、削除対象を抽出

４．機能追加

ヒアリングシートによる追加機能の明確化、検討

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

４つの観点の資産分析について

FUJITSU

■ １．全体診断（現行踏襲）

現行資産を調査・見える化し、既存システムを流用することに対しての課題を抽出

・OSやミドルウェア製品のサポート期間等を調査し、継続利用を妨げる要因の有無を調査分析する

・プログラムの複雑さやアプリケーション構造の複雑さを調査し肥大化、複雑化したシステムのスリム化、業務改善を提案する

分析内容

・システム構成調査

OS、使用ソフトウェアの販売終了、サポート期間を調査する

・プログラム単体特性

プログラム単体の複雑さなどを調査し、保守性が悪いと思われるプログラムを抽出する

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

４つの観点の資産分析について

FUJITSU

■ １．全体診断（現行踏襲）

分析内容（続き）

・プログラム性能特性

現行資産を流用してマイグレーションした場合に、性能劣化が発生する可能性がある箇所を特定する

・プログラムメンテナンス特性

プログラムの改修の回数・期間等から対象プログラムを抽出する

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

４つの観点の資産分析について

FUJITSU

■ ２．分割刷新

現行システムに対して新たなデジタル技術の活用を期待している機能、あるいは頻繁に更新がかかっている機能を分割刷新の候補とし、その分割候補についてプログラム構造（データとプログラムの関係性、メソッドの呼び出し関係性）を調査分割可能であるかを分析し、分割刷新の機能として分類・評価する

分析内容

・プログラム更新頻度調査

プログラムのコメント等から、資産の更新頻度を調査する

・実行モジュール間呼び出し調査

対象のモジュールを起点として、モジュール間の呼び出し関係を調査する

・プログラムーデータ間呼び出し調査

CRUDツールを使用して、データの関係性を調査し、データとプログラムの関係性を調査する

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

４つの観点の資産分析について

FUJITSU

３．機能削除・縮小

現行システムで使用されていないメソッドやコントロールを抽出して、プログラムから削除することでプログラム規模を縮小できる資産や
類似した処理や画面を抽出、機能を統合し、全体規模を縮小できる資産を機能縮小として分類
現行システムから未使用機能、未利用機能である資産を抽出し、削除対象として分析する

分析内容

・未使用機能調査
プログラム内で使われていない機能の調査、特定を行う

・類似画面調査
画面類似度の調査、処理の類似度の調査、データアクセスの類似度の調査を行う

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

４つの観点の資産分析について

FUJITSU

■ ３．機能削除・縮小

分析内容（続き）

・モジュール間の呼び出し関係

どこからも起動されていないモジュールを抽出

・未利用画面調査

ユーザが使用していない実行モジュールを調査

・稼働ログ調査

利用ログからモジュールの利用頻度を調査

・起動アプリ情報収集

顧客端末において、実行されているアプリの情報収集・調査

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

４つの観点の資産分析について

FUJITSU

■ ４．機能追加

ヒアリングシートを基に追加したい機能等を明確にし、現行システムにその機能を追加するにあたり、現行システムにどのような影響があるかを調査

分析内容

・現行システム要望調査ヒアリング

・ヒアリング内容に応じた調査

顧客要望によって、調査を実施

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

資産分析の流れ

■ 資産分析の実施手順

[STEP1]

VBプログラムで作成されたシステムを調査し、同時に顧客ヒアリングに使用する補助資料を出力する

[STEP2]

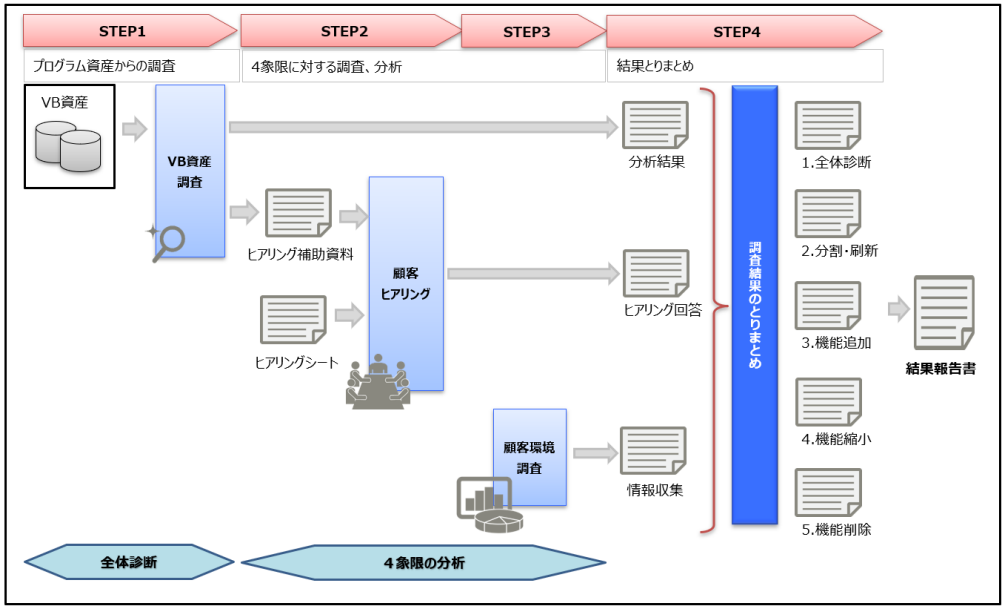
顧客ヒアリング補助資料等を使用してヒアリングを実施し、仕分けに必要な情報を収集する

[STEP3]

顧客環境調査として、クライアント端末から得られる情報やシステム設計書等を収集する

[STEP4]

これらの情報を基に資産分析を実施し、現行システムを分類・整理した情報を結果報告書として作成する



© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

VBプログラム資産分析ソリューション

FUJITSU

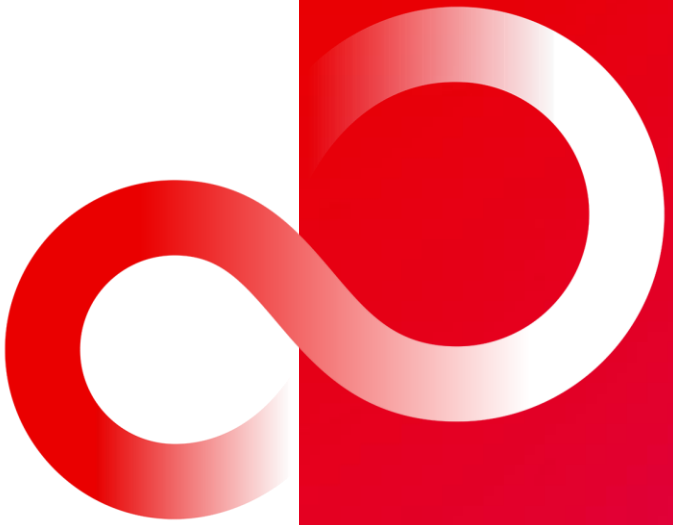
ソリューション	分析の内容	分析結果	ご提供依頼
システム規模構成分析	システム規模 プログラム構成	• 物理ファイル構成 • プログラム本数 • 論理ファイル構成 • 画面の構成 • その他(OCX構成 etc)	NDA締結書類 VB資産一式
プログラム実装分析	プログラム実装	• プロシジャの呼出し関係 • プロシジャの使用・未使用	NDA締結書類 VB資産一式 テーブル定義設計書
	プログラム実装(DBアクセス)	• 使用SQL文の一覧 (*1) • CRUD図(*1)	
レガシー改善資産分析	レガシー資産脱却に向けた取り組みを支援する分析	全体診断 分割刷新 診断報告 機能削除・縮小 診断報告 機能追加 診断報告 ※レガシー資産分析には、システム規模構成分析、プログラム実装分析の結果も含みます。	VB資産一式 顧客ヒアリング 顧客環境でのログ調査 ：

(*1 VBプログラムへの埋めこみSQLのみが対象となります。)

© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited

FUJITSU

Thank you



© 2025 Fujitsu Kagoshima Infornet Limited